

環境マネジメント

ヤクルト環境基本方針

当社は、1991年11月に地球環境の保全に取り組むための組織を設置し、1997年6月にはグループ全体を対象とした「ヤクルト環境基本方針」を策定しました。そこに掲げた「環境理念」と「行動指針」に基づき、事業活動の全領域で環境保全活動を推進しています。2001年度から2020年度までは「ヤクルト本社環境行動計画」を策定し、研究開発、生産、営業およびオフィスの全部門をあげて環境対策活動を展開しました。2021年度からはヤクルトグループ環境ビジョンを策定し、ヤクルトグループ一丸となって環境負荷の低減に向けた取り組みを推進しています。

ヤクルト環境基本方針

環境理念

株式会社ヤクルト本社およびヤクルトグループの全事業体は、地球環境の保全が「社会と共生する経営」の最重要課題の一つであることを認識し、企業活動のあらゆる面で環境の保全に配慮して行動する。

行動指針

1. ヤクルト本社内に設置する「CSR推進委員会」の施策を実現するため、ヤクルトグループの全事業体は一体となって、事業活動に伴う環境問題に積極的に、かつ継続的に取り組む。
2. 各事業体は環境マネジメントシステムを構築し、環境負荷の抑制を目標に従事者全員の参加により体系的に取り組むとともに、その継続的改善を図るために定期的な実施状況を点検、監査し、環境行動の見直しを行う。
3. 環境関連の法律・規制・協定などを遵守することはもとより、自主基準を設定し、環境管理レベルの一層の向上と環境汚染リスクの未然防止に努める。
4. 事業活動の全般において、環境のみならず生物多様性にも配慮した環境負荷の低減化を推進する。
5. 従事者全員に対する環境教育を徹底し、環境保全意識の向上を図る。
6. 環境行動に関する情報を適切に開示し、社会とのコミュニケーションに努める。
7. 企業市民として、地域の環境保全活動に対する支援、協力を積極的に行う。

策定 1997年6月24日 改定 2004年3月8日／2010年1月25日

ヤクルトグループ環境基本方針全文は以下URLからご確認ください。

WEB <https://www.yakult.co.jp/csr/environment/management/index.html>

ヤクルトグループ環境ビジョン

世界では、気候変動問題をはじめとする、さまざまな環境問題が深刻化しています。ヤクルトグループの商品は、世界40の国・地域に展開しており、現地生産・現地販売を基本とした事業活動を推進していますが、それはいいかえると、世界各地の社会や環境にプラス面だけではなく、マイナス面も含め影響を与えているということと認識しています。

ヤクルトグループは、地球環境へのマイナスの影響を減少させ、プラスの影響を与える取り組みを推進していくために、2021年3月、人と地球の共生社会の実現を目指す「ヤクルトグループ環境ビジョン」を策定しました。2050年のあるべき姿として「環境ビジョン2050」を定め、バックカスティング思考に基づいた中短期のマイルストーンも策定して、実効性のある取り組みを推進していきます。



環境マネジメント体制

CSR推進委員会において、「環境ビジョン2050」に向けた中短期マイルストーン「環境目標2030」、「環境アクション(2021-2024)」の策定および環境活動の進捗把握・評価を行っています。環境活動の成果や進捗状況は、CSR推進委員会の事務局が半期ごとに把握・解析し、その結果は次年度の計画に活用しています。

各本社工場、各ボトリング会社では、工場長または社長をトップとする委員会を設置して「年次計画」を策定し、ISO 14001の環境マネジメントプログラム等に基づく環境活動を推進しています。

工場部門の全体会議は年1回開催し、グループ内で成功事例を共有化する等、活動を工場全体に水平展開する工夫をしています。

関連情報 [P.88 CSR推進委員会](#) ▶▶▶

環境ビジョン2050

「人と地球の共生社会を実現する バリューチェーン環境負荷ゼロ経営」

2050年までに温室効果ガス排出量ネットゼロ（スコープ1・2・3）を目指します。

環境目標2030

環境に関する3つのマテリアリティについて、「環境ビジョン2050」実現に向けた中期的マイルストーンとして「環境目標2030」を設定し、推進していきます。

気候変動



温室効果ガス排出量（国内スコープ1・2）を

2018年度比 **30%削減** する

取り組み

- ・脱炭素に向けた温室効果ガス排出量の削減
- ・省エネ活動の推進や再生可能エネルギーの導入 等

関連情報 ▶ P.27 気候変動 ▶▶▶

プラスチック容器包装



プラスチック製容器包装の使用量（国内）を

2018年度比 **30%削減** あるいは **再生可能** にする

取り組み

- ・資源循環しやすい容器包装への転換
- ・容器包装の素材変更による環境負荷低減 等

関連情報 ▶ P.32 プラスチック容器包装 ▶▶▶

水



水使用量（国内乳製品工場：生産量原単位）を

2018年度比 **10%削減** する

取り組み

- ・持続可能な水資源の使用
- ・水使用量の削減 等

関連情報 ▶ P.36 水 ▶▶▶

環境アクション(2021-2024)

「環境目標2030」を達成するための短期的マイルストーンとして「環境アクション(2021-2024)」を設定し、推進していきます。また、マテリアリティにはありませんが廃棄物の削減、生物多様性の保全についても、継続して取り組みを推進していきます。

重点課題	目標
1. 脱炭素社会の実現 気候変動 	温室効果ガス排出量（国内スコープ1・2）を2024年度末までに2018年度比10%削減
2. 資源循環できる容器包装への転換 プラスチック容器包装 	(1) プラスチック製容器包装の使用量（国内）を、2024年度末までに2018年度比5%削減あるいは再生可能にする (2) 容器包装の資材使用量を削減 (3) 容器包装の素材変更により環境負荷を低減 (4) 容器包装に植物由来の環境にやさしい素材を使用
3. 水使用量の削減 水 	(1) 水使用量（国内乳製品工場：生産量原単位）を2024年度末までに2018年度比3%削減
4. 廃棄物の削減	(1) 廃棄物発生量を2024年度末までに2010年度比20%削減 (2) 食品廃棄物の再資源化率 95%以上の維持
5. 生物多様性の保全と活用	(1) 自然保全活動の支援・参画 (2) 生物多様性に関する教育の推進

環境ビジョンの進捗状況

気候変動

温室効果ガス排出量(国内、スコープ1・2)について、2021年度は国内3工場で5台の成形機を省エネタイプの電動成形機へ更新したことや、各事業所での省エネ活動等により、2018年度比5.2%削減しました。

プラスチック容器包装

プラスチック製容器包装の使用量(国内)について、2021年度は「Newヤクルト」のシリーズ品へのストロー貼付廃止等で使用量削減に努めましたが、新商品の売上拡大にともない、2018年度比で約6%増加見込み(再生可能でないもの)です。

水

水使用量(国内の乳製品工場：生産量原単位)については、工場での工程作業方法再考による原料水使用量削減や、自動水洗時間の見直しによる用水の削減等の節水活動により、2021年度は2018年度比で生産量原単位で2.4%削減しました。

環境ビジョン実現に向けたロードマップ

環境ビジョンの目標達成に向けて、2022年4月に「環境対応推進室」を新設。環境アクション(2021-2024)の目標達成、および環境目標2030、環境ビジョン2050の目標達成に向けた各種取り組みを推進していきます。

気候変動

- 再生可能エネルギーへの転換(実質的に再生可能なエネルギー電力の購入、自社での太陽光発電設備の設置等)
- インターナルカーボンプライシング(ICP)の導入検討
- 省エネ活動の推進

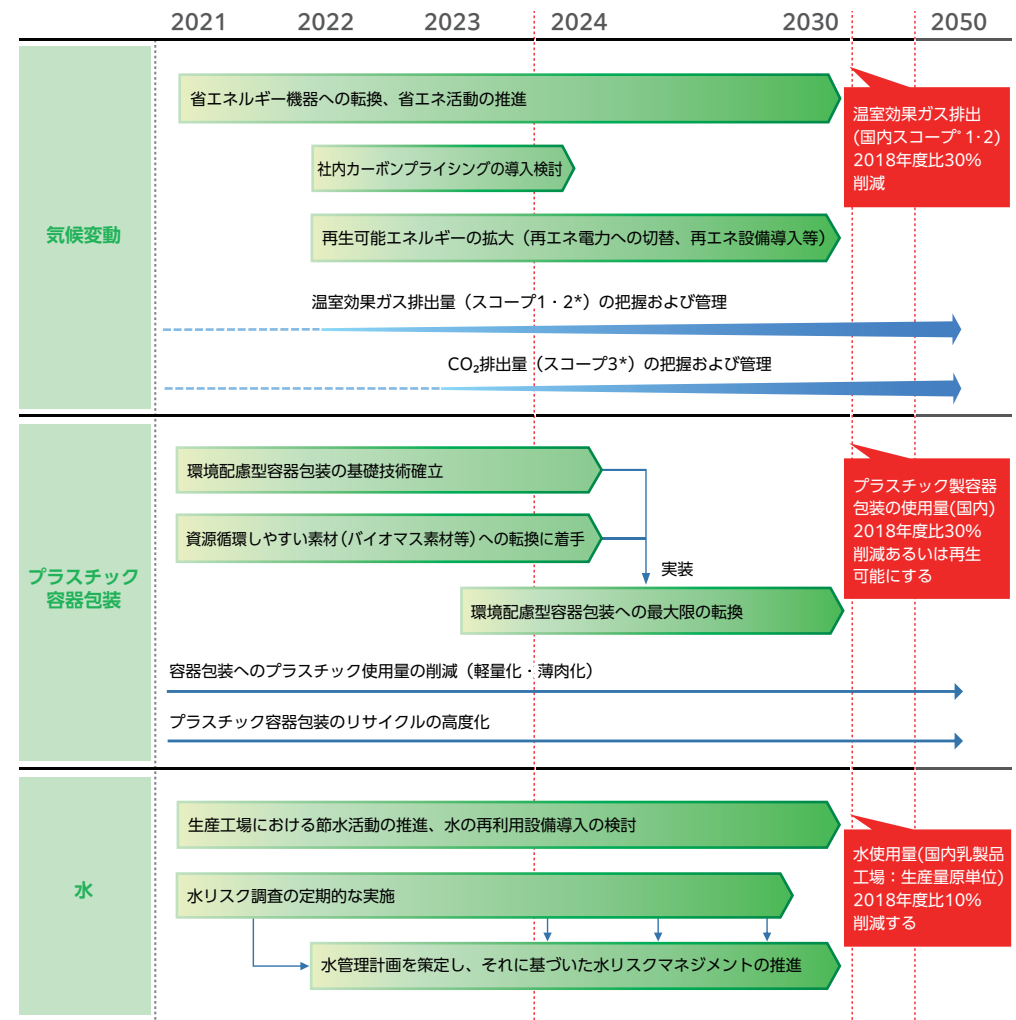
プラスチック容器包装

- 容器包装へのプラスチック使用量の削減(軽量化・薄肉化)
- 容器展開の多様化の検討
- 容器包装の資源循環しやすい素材(リサイクル素材、バイオマス素材、生物分解性素材等)への転換検討

水

- 水循環利用設備の導入検討
- 水管理計画を策定し、それに基づいた水リスクマネジメントの推進

環境ビジョン実現に向けたロードマップ



*スコープの定義
 スコープ1：自社の事業活動での燃料使用にともなう直接排出量
 スコープ2：企業が外部から購入する電気・蒸気・熱に関する間接排出量
 スコープ3：事業活動に関連するサプライチェーン全体における排出量